

4115 本州化学工業

船越 良幸 (フナコシ ヨシユキ)

本州化学工業株式会社社長

新規製品の開発と上市を加速化

◆当社の特徴

当社は、1914年11月に由良精工(資)として設立された。国内初のベンゼン精留装置を完成させ、合成染料アニリンの製造を開始した。当時のベンゼン精留装置は、現在も保存されており、近代化産業遺産に認定されている。当社の資本金は15億50万円、主要株主は三井物産および三井化学である。本店は東京にあり、和歌山市に工場および総合研究所を併設している。重要な関係会社として、ドイツに特殊ビスフェノールの製造販売会社であるHi-Bis社を設立している。

コア事業は、①成長する市場があること、②独自技術が活用できること、③世界または日本において高いマーケットシェアを有していることを選定基準としており、現在、“クレゾール誘導品”、“フォトレジスト材料”、“特殊ビスフェノール”、“ビスフェノール”および“ビスフェノールF”の5製品がコア事業となっている。

“クレゾール誘導品”は、ビタミンEの原料となり家畜飼料添加剤などに使用されるトリメチルフェノールが主力製品である。“フォトレジスト材料”は半導体の製造などに、“特殊ビスフェノール”は特殊ポリカーボネート樹脂原料などに使用される。“ビスフェノール”はパソコン等の電子部品などに使用されており、“ビスフェノールF”はエポキシ樹脂や積層板などに使用される。

当社グループの事業は、歴史的経緯と基盤技術の蓄積により、フェノール誘導品に特化している。三井化学から購入している主原料のフェノールやメタパラクレゾールを使用して各種製品(中間材料)を製造し販売している。主要な顧客は、樹脂メーカー、フォトレジストメーカー、医薬品メーカーであり、当社は顧客から頼りにされる製品開発パートナーとしての関係を築いている。

フェノール誘導品事業の展開を辿れば、1988年にビスフェノールA事業を三井石油化学工業(現・三井化学)に譲渡し、これを機により一層ファインケミカル分野に事業を特化することとなった。2004年にHi-Bis社の営業を開始、2008年にビスフェノールFの製造設備を増強、2009年に精製BHT(酸化防止剤)事業を開始した。2012年は、10月にHi-Bis社の製造設備の増設工事に着工し、11月には特殊ビスフェノール(光学・電子部品用途向け)の上市を行った。

◆2013年3月期実績

■連結業績

連結業績は、売上高が154.7億円(前期比8.6億円減)となり、営業利益は7.2億円(同8.1億円減)、経常利益は7.1億円(同7.8億円減)、当期純利益は3.4億円(同4.2億円減)となった。

当期の事業環境としては、新興国における経済成長が鈍化したことに加え、欧州債務危機を背景として海外経済が減速する中で、円高が定着するなど、当社にも逆風となった。IT・デジタル家電分野の減速および市場のグローバル化による影響もあった。スマートフォンなどは活況を呈しているが、当社の製品が使用される部分は軽薄短小が進み、使用量が減少している。また、昨年4月22日に三井化学の岩国大竹工場で爆発・火災事故

があり、主要原料のメタパラクレゾールが供給停止となった。11 月にはメタパラクレゾールの供給が再開されたが、この間、長期契約のものを優先的に出荷し、それ以外のは販売を抑制せざるを得なかった。12 月の政権交代後は、円安・株価回復基調へと転換し、経済環境もやや明るくなる方向に向かっていく動きがみられた。

■部門別状況

化学品部門の売上高は 63.5 億円(前期比 8.0 億円減)となった。トリメチルフェノールや精製 BHT 等のクレゾール誘導品は、三井化学の事故により販売の抑制を余儀なくされた。ビスフェノールは、IT・デジタル家電の電子部品の生産・在庫調整により前期に比べ販売が減少した。ビスフェノール F は、復興需要もあり順調であった。

機能材料部門の売上高は 37.4 億円(前期比 4.4 億円減)となった。フォトレジスト材料は、薄型テレビやパソコン等の需要が生産・在庫調整により減退したことに加え、三井化学の事故により当社のユーザーであるフォトレジストメーカーにおいてメタパラクレゾールを原料とするノボラック樹脂の調達が困難となったことも影響したため、前期に比べ販売が減少した。感光性ポリイミド材料は、素材の世代交代の影響により減販となった。特殊ビスフェノールは、新規開発品の上市もあり、光学・電子部品用途向けが堅調であった。

工業材料部門の売上高は 54.9 億円(前期比 4.0 億円増)となった。自動車用部品向けの特殊ポリカーボネート樹脂原料である Hi-Bis 社の特殊ビスフェノールは、需要の伸長により好調な販売となった。受託品は、景気の全般的な低迷を受け受託数量が若干減少した。

◆2013年3月期における実行施策

当期に実行した施策として、「既存コア製品の販売拡大」、「開発製品のマーケティング強化」、「新規用途開発への展開」、「和歌山工場の安全・安定運転」、「生産効率化・コストダウン」および「Hi-Bis 社の特殊ビスフェノールプラント増設工事開始」がある。

「既存コア製品の販売拡大」については、メタクレゾールの販売を強化した。自動車用部品向け特殊ポリカーボネート樹脂原料となる特殊ビスフェノールは、生産・販売数量の拡大が続いている。この製品は、高耐熱性でありながら成形性をも有しているという優れた特長を備えており、自動車のヘッドランプ向けなどに使用されている。

「開発製品のマーケティング強化」については、光学・電子部品用途向け特殊ビスフェノールの新規上市を行った。

「新規用途開発への展開」については、高表面硬度樹脂モノマーへの展開を図っており、間もなく新製品を上市する。この製品は、表面硬度が必要な自動車のガラスを代替する樹脂グレージングといった分野に展開できることが期待されるものであり、成形の自由度も拡大し、大型製品の製造も可能であることも特長である。スマートフォンの躯体などにも使用される。

「和歌山工場の安全・安定運転」については、様々な施策を講じている。BEP(ブレーク・イーブンポイント)60 活動として、稼働率が 60%でも利益を出せる体質づくりを積極的に推進している。このような取り組みが評価され、重要顧客より「2012 Preferred Supplier」を受賞した。

「生産効率化・コストダウン」については、和歌山工場の計器室の統合化を進めており、第1期計画が終了した。また、経費削減にも取り組み、その一環である電気代の削減対策としてコージェネレーションシステムの導入を検討している。

「Hi-Bis 社の特殊ビスフェノールプラント増設工事開始」については、既存のプラントと同規模のプラントを併設するものであり、2014 年 3 月に完工、同年 7 月に営業運転開始の予定である。

◆2014 年 3 月期通期見通し

2014 年 3 月期の連結業績は、売上高 179.0 億円(2013 年 3 月期比 24.2 億円増)と予想している。クレゾール事

業の回復のほか、電材事業を含め製品全般で景気回復による販売増を見込んでいる。

営業利益は 14.0 億円(同 6.7 億円増)、経常利益 13.5 億円(同 6.3 億円増)、当期純利益 7.5 億円(同 4.0 億円増)と予想している。

予想される事業環境として、一般的に国内では円高是正および輸出環境改善が見込まれる。当社の輸出額は全体の 20%程度であるが、国内ユーザーの輸出が増加すれば当社にとっても好影響となる。メタパラクレゾールは全面的な供給開始となり、原料の調達不安が解消されるため、シェアの回復に努める。グローバル化の進展および競合激化が予想されるが、これに打ち勝って事業を推進したい。一方、海外では、欧州債務危機の再燃が危惧されており、原油価格の動向や円安による原燃料の高騰という懸念がある。

以上を踏まえ、既存事業の強化策として、まずはクレゾール事業の再生を図っていく。原料の供給停止により抑制していた出荷を、以前の状態まで回復させ、さらにこれを上回るよう拡販を図りたい。特殊ビスフェノール事業は、自動車用部品向けおよび光学用途向けともに拡大を推進する。電子材料分野は当社の収益源であるが、2013 年 3 月期は苦戦した。今後開発のスピードアップを図るとともに顧客へのプッシュアップを行い、収益を維持したい。ビスフェノール F も収益拡大を進めていく。基盤の強化策としては、BEP60 の達成と工場環境安全対策の推進に取り組む。また、今後の展開のための人材育成強化に注力する。さらに、新規事業の創出および新規製品の上市について加速化を図っていく。特殊ビスフェノール事業の強化に加え、事業提携、共同開発、M&A も検討する。これらを実現するため、新規事業の開発体制強化を目的とした組織変更を行い、経営企画部の中に事業企画室および事業開発室を設置することとしている。事業開発室は、開発を横断的に管理することで研究・製造・開発のかじ取りを行う。

配当に関しては、安定配当を継続的に実施している。2011 年 3 月期以降 16 円を維持しており、2014 年 3 月期も 16 円を予定している。創業 100 年目となる 2014 年を控え、今後は配当を上げられるよう足場固めに努めていきたい。

(平成 25 年 5 月 30 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.honshuchemical.co.jp>